

～介護が必要になっても、 高齢者がいきいきと暮らせる地域って？～

平成29年地域政策研究センター地域協働研究【ステージⅠ】採択課題

課題名：地域包括ケアシステムの評価に関する研究

研究代表者：社会福祉学部 准教授 齋藤昭彦

研究チーム員：鈴木力雄（社会福祉学部）、佐藤哲郎（同左）、柏葉英美（同左）、森昌弘（岩手県）

研究関与者：阿部真治（岩手県）、小野寺嘉明（いきいき岩手支援財団）、玉山公一（同左）

技術キーワード：地域包括ケア、評価指標、地域づくり

▼研究の概要（背景・目標）

市町村は多様であり、地域包括ケアの取組みを客観的に評価することが難しく、その具体的評価方法等が課題である。

本研究は、岩手県の市町村の地域包括ケアシステム構築の取組を評価する指標設定や評価手法の具体化を目的として行った。

▼研究の内容（方法・経過）

1. 岩手県内の市町村の地域包括ケアシステム構築に向けた取組状況及び課題の把握
2. 先進地広島県の地域包括ケアの評価に関する実地調査
3. 遠野市及び岩手町に対する「生活支援体制整備事業」に関する評価項目（試案）による実地ヒアリング

▼研究の成果（結論・考察）

1. 県内市町では、人材の不足、連携の困難さ、過大な業務量などが課題であった。
2. 広島県では、相互評価による信頼の醸成、進捗状況の把握などが成果であり、定量評価指標の不足が課題であった。
3. 生活支援体制整備事業を評価するために、プログラム評価で用いられるロジック・モデルを仮説的に作成した。
4. 遠野市及び岩手町でのヒアリングの結果、評価項目数・内容についての妥当性が確認された。

▼おわりに（まとめ・今後の展開）

1. 「生活支援」の要素に関する評価項目を試作したが、その完成を目指すことが課題である。
2. 生活支援以外の「医療・介護・予防・住まい」の指標（項目）の設定や評価手法の開発が課題である。
3. 本研究の調査にご多忙の中ご協力いただきました広島県、遠野市、岩手町の関係者の方々に、深く感謝申し上げます。

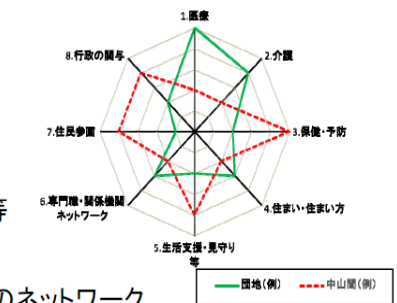
地域包括ケアシステムの評価指標（暫定版）

国の要素

- 1 医療
- 2 介護
- 3 保健・予防
- 4 住まい・住まい方
- 5 生活支援・見守り等

広島県の追加要素

- 6 専門職・関係機関のネットワーク
- 7 住民参画（自助・互助）
- 8 行政の関与（連携）



（広島県・広島県地域包括ケア推進センター）

広島県地域包括ケア推進センターHPより引用

<http://chiikihoukatsucare.net/home/hyouka.html> 2018.6.18閲覧

評価項目の例

Ⅲ. 生活支援コーディネーター

(1) ニーズ把握

	項目	趣旨・考え方
①	当事者から相談を受ける はい いいえ	要介護高齢者または介護者等の当事者から相談をうけていることを確認する。
②	訪問する等で当事者のニーズを把握している はい いいえ	上記の当事者等の自宅へ訪問してニーズ把握を確認する。例）本人の生活状況、住環境、地域との関係等の把握
③	マップ（地域の地図等）や映像などを活用して、地域の状況を視覚的に編集している はい いいえ ・ <u>具体例</u>	“見える化”に代表されるように、収集したデータを可視化するための工夫をしているかどうかを確認する。